

施策 No.	政策名	子どもから高齢者まで健康で共生のまちづくり	主管課	児童福祉課	主管課長名	太田 昇子
1-1	施策名	子育て支援の充実と少子化対策の推進	関係課	健康推進課、各こども園、幼稚園、学校教育課、国保年金課、農林課、生活環境課		

1. 施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	
	市民 子育てをする保護者	①桜川市人口	見込値	人	見込値	41,278	41,008	40,738	40,467	40,197
実績値						41,278				
②中学生までの子ども(乳幼児・児童・生徒)を持つ世帯数			見込値	世帯	見込値	2,695	2,691	2,688	2,685	
						実績値	2,695			
		見込値			見込値					
						実績値				
成果指標設定の考え方		施策の意図	成果指標名	単位	区分	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
		安心して子どもを産み、子育てが できている。	①子育てがしやすいまちだと思ふ割合	%	目標値	48.0	49.0	50.0	51.0	52.0
実績値						46.8				
②子育てが楽しいと感じる保護者の割合			%	目標値	90.0	90.5	91.0	91.5	92.0	
	実績値				88.1					
③仕事と子育てが両立できていると思ふ保護者の割合	%		目標値	63.0	64.0	65.0	66.0	67.0		
				実績値	63.7					
④ファミリー・サポート・センターを利用した保護者の年間延べ利用者数	人		目標値	40	45	50	55	60		
				実績値	0					
	目標値			目標値						
					実績値					
成果指標の把握方法と算定式等	○安心して子供を産み子育てができるには、子育てがしやすいまちと思ふ割合が増加すると、子育てしやすい環境が整っていると考えられ出生率も上昇する。 ○子育て支援が充実することによって子育てが楽しいと考える保護者のわりあいが増加すると考えられる。 ○女性の就労人口が増えることにより仕事と子育ての両立が厳しいと思われ、子育て支援が必要と考えられる。 ○子育て支援としてお子さんを預かってほしい「お願い会員」と預かってくださる「まかせて会員」のマッチングをすることで安心して子育てが行える。									
	○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①子育てがしやすいまちだと思ふ割合、③仕事と子育てが両立できていると思ふ保護者の割合は、市民アンケートより求める。②子育てが楽しいと感じる保護者の割合は、乳幼児健診時アンケートより求める。④ファミリー・サポート・センターを利用した保護者の年間延べ利用者数は事業者からの利用実績報告数より求める。									

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は?)		
実績比較	<input type="checkbox"/> 成果がすべて向上した <input checked="" type="checkbox"/> 低下した成果が多かった	<input type="checkbox"/> 向上した成果が多かった <input checked="" type="checkbox"/> 成果がすべて低下した
背景・要因	・平成30年3月末の桜川市の年齢別統計表によると、5歳児の人口は、295人、4歳児249人、3歳児269人、2歳児224人、1歳児240人、0歳児199人と年々児童数は減少していることがわかる。 ・桜川市が子育てしやすいまちだと思ふ割合は、2016年度では、53.2%、2017年度では、46.8%でやや減少した。 ・子育てが楽しいと感じられる保護者の割合は、2016年度で、91.5%、2017年度では、88.1%でやや減少した。 ・仕事と子育てが両立できていると思ふ割合が2016年度で、65.6%、2017年度では、63.7%とやや減少した。 ・ファミリーサポート・センターの利用した保護者の年間延べ人数については2016年度においては17人、2017年度では利用者がいない状況でした。	
2) 成果目標の達成状況		
実績比較	<input type="checkbox"/> 目標値のすべてを上回った <input checked="" type="checkbox"/> 目標値を下回ったものが多かった	<input type="checkbox"/> 目標値を上回ったものが多かった <input type="checkbox"/> 目標値のすべてを下回った
背景・要因	・桜川市が子育てしやすいまちだと思ふ割合は、平成29年度46.8%で目標値に達しなかったが、約半数の方が満足している。 ・子育てが楽しいと感じられる保護者の割合は、平成29年度88.1%で目標値に達しなかったが、非常に高い割合の保護者が子育てが楽しいと感じている。 ・仕事と子育てが両立できていると思ふ割合は、平成29年度63.7%と目標値に達している。 ・ファミリーサポート・センターの利用した保護者については、今年度については、0人と周知不足や経費負担が要因と思われる。	

3. 施策の成果実績に対する総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対する総括	今後の課題・方針
平成29年度で成果があった施策は、①子育てがしやすいまちだと思ふ割合。目標の数値48%には、達しなかったが、納得できる数値であった。また、③の仕事と子育てが両立できていると思ふ保護者の割合は、目標の67%を上回ることができた。②の子育てが楽しいと感じる保護者の割合は、目標の90%には届かなかったが、88.1%であった。④のファミリー・サポート・センターを利用した保護者の年間延べ利用者数は、利用者数がなく、次年度の課題となった。	平成29年度の利用者数が0人であった④のファミリー・サポート・センターを利用した保護者の年間延べ利用者数については、経費の個人負担や周知不足が考えられる。保育の多様化するニーズに応えられるように行っている事業であるので、多くの方に知ってもらい活用していただきたい。